



まっすぐ! あなたに。
まっすぐ! 未来へ。

京都市会議員 西山のぶまさ



下京 まっすぐジャーナル

Shimogyo Massugu Journal

第6号 2017.September

京都市会議員 西山のぶまさ事務所
京都市下京区大宮通木津屋橋上る上之町417-1
TEL:075-746-2725 FAX:075-320-2454
E-mail:n.n.massugu24@gmail.com

わかりやすい版(リビ付き)おもて面

災害に強いまちづくりへ!

毎年のように日本のどこかで台風や豪雨のため、大きな被害が出ています。また、昨年は、熊本で大きな地震が起きました。災害はいつ起こるかわかりません。でも、事前に準備をすることで被害を減らすことができます。西山のぶまさは、災害に強いまちづくりを目指し、全力で取り組んでいます。



皆さんも京都市市民防災センターに

西山のぶまさは、8月25日、南区にある京都市市民防災センターに行きました。このセンターでは、台風の風の強さ(左の写真)や地震の揺れの強さなどを体験できます。「見る」「聴く」「触れる」「感じる」ことで多くのことが学べます。お子さん向けのコーナーもあるので、皆さん、ぜひ行ってください。



避難が必要な時に出る情報(避難情報)

平成28年8月に岩手県岩泉町で台風のため、多くの高齢者が亡くなりました。高齢者が住んでいた施設では、避難情報がどんな意味なのかを正しく理解することができず、避難が必要なのに避難しなかったので、逃げ遅れました。この災害をきっかけに、避難が必要な時に出る情報の呼び方をわかりやすく変えることになりました。

「避難情報」は3種類!

※順番に発令されるとは限りません。

高い

災害の緊迫度

極めて高い

避難準備・ 高齢者等避難開始

避難に時間がかかる人(高齢者、障がいのある方、乳幼児など)とその支援者は避難開始。

避難勧告

速やかに避難場所へ。

避難指示(緊急)

まだ避難していない人は、緊急に避難。



外が危険な場合は、屋内の安全な場所へ。

災害への備えあれこれ

防災マップの確認

京都市防災マップは、地震用と水災害用の2種類あります。雨がたくさん降った時に危ない場所や自分が避難する場所を確かめましょう。



防災訓練への参加

地域ごとに防災訓練が行われています。積極的に参加しましょう。



非常持ち出し品の準備

食料や貴重品など、非常に持ち出す物の準備をしましょう。



●他にもできることはたくさんあります。京都市ホームページの防災ポータルサイト「京都市防災危機管理情報館」(<http://www.bousai-kyoto-city.jp/bousai/>)には防災マップや避難所の場所などがたくさん載っています。

下京まっすぐジャーナル第6号の表面は、「わかりやすい版」としてつくりました。「わかりやすい版」をつくろうと思ったきっかけなどについては、裏面下の「西山のぶまさからのメッセージ」を見てください。

まっすぐ!▶あなたに。 西山のぶまさの日々の活動から

「教育福祉委員会」で質問を重ねる

西山のぶまさは、^{おおむ}概ね月2回開催される教育福祉委員会で質問を重ねています。

障がい者のコミュニケーション支援

障害者差別解消法が平成28年4月1日から施行され、役所や事業者に対して「不当な差別的取扱い」を禁止し、「合理的配慮の提供」を求めるようになりました。西山のぶまさは、市の窓口において、障がい者に対するコミュニケーション支援を一層充実させ、知的障がいなどで活字情報の理解が困難な方にもわかりやすい文書や冊子を作成するように訴えました。



教員の働き方改革

文部科学省が全国の小中学校を対象に実施した調査では、教員の時間外労働が見過ごせない状態になっていることが判明しました。例えば、一般に「過労死ライン」とされる月80時間を超える時間外労働をしている教諭は、小学校で34%、中学校で58%にのぼっています。このままでは、教員の心身の健康が損なわれかねず、子どもに向き合う時間が十分に確保できません。教員の健康があってこそその教育です。こうした状況を改善できるよう教員の働き方改革を求めました。



病児保育の充実

「病児保育」とは、子どもが病気になった時、仕事などの都合で、どうしても家庭で保育ができない場合、医療機関に付設された施設が一時的に保育を行う制度です。今、非常にニーズが高いことから年々整備が進んでいます。お母さんの生の声を聞いても、高い期待がたくさん寄せられています。まだまだ課題はありますが、より良い制度にできるよう充実を求めました。



まっすぐ!▶未来へ。 西山のぶまさからのメッセージ

ジャーナルの「わかりやすい版(ルビ付き)」をつくろう!

「なかなか政治家の声が届かないんです」—ある障害者団体の全国集会に参加した時、知的障がいを抱える方についての発言が、今でも私の心から離れません。与えられる活字情報を理解すること自体が困難で、誰に投票してよいか分からず。そもそも知的障がいを抱える方にとて、活字そのものがとても届きにくいことを思い知らされました。そして、それは決して政治の情報だけでなく、生活に必要な行政情報も、十分に届いていないということに改めて気付かされたのです。

知的障がいなど、活字情報の理解に困難を抱える方々にとっては、家族等からの間接的な情報提供が中心で、直接、本人にわかりやすく情報が届けられることは極めてまれであるというのが現状です。聴覚障がい者には手話、視覚障がい者には点字がありますが、活字情報が理解しづらい方々に対して、わかりやすい表現が、どの程度配慮されているかといえば、弱者に対して最大に配慮すべき行政機関ですら、とても充実しているとは言えないでしょう。

昨年4月、障害者差別解消法が施行されましたが、障がいを抱



た方が自らの意思決定をきちんと行うためには、必要な情報をわかりやすく得られる環境を整備し、その権利を十分に保障しなければなりません。私が所属する教育福祉委員会では、京都市に対して、一層わかりやすく情報を提供できるよう、対応を求めていました。しかし、行政に働きかけるのであれば、自分自身こそ率先して誰にもわかりやすい情報提供に努力しなければならないのではないか—そんなふうに思い立って、今回の「下京まっすぐジャーナル」第6号の表面を「わかりやすい版」として編集してみました。

私なりに、いくつもの文献を読み、先行事例の研究にも取り組みましたが、不十分な点も多々あると思います。皆様はどのような感想をお持ちになったでしょうか。率直にいろんなご意見を頂戴できれば、これ以上の喜びはありません。いずれにせよ、今後、社会のあらゆる場面で、誰にもわかりやすい情報提供への意識が啓発され広がっていけばと念願しております。私自身も、できる限り、「わかりやすい版」への取り組みを続けてまいりたいと決意しています。

- ジャーナルをご覧いただいている一部の方に、今号で紹介した防災や障がいのある方への情報提供に関するアンケートを送付しています。今後の市政に役立てたいと思いますので、是非、ご協力をお願い申し上げます。

下京まっすぐジャーナル第6号は、印刷版のほかに、点字版、裏面のわかりやすい版も作成しています。
それを利用したいと希望される方は、西山のぶまさ事務所までご連絡ください。※点字版は、数に限りがあります。
※裏面のわかりやすい版は、西山のぶまさのホームページにも掲載しています。

▶西山のぶまさ ホームページ <http://www.nishiyama-massugu.net/>



公明チームKYOTO
地域のチカラ